

## 11. 森林の経済面、環境面からの機能評価に関する研究

### (1) 都市近郊林における農家の落葉掻きに関するアンケート調査

久野春子、菊池豊<sup>1)</sup>、新井一司

#### 〔目的〕

近年、都市化の進行により雑木林は減少したが、残された雑木林は都民の食生活の向上に対応できる有機質肥料を主とした農業を行っている周辺の農家の手により管理されてきた。著者らは三鷹市内の雑木林で農家が冬期に下刈りと落葉掻きを毎年行なうことにより、林内の光条件や林床植生の種の多様性および景観などが維持されてきたことを報告した<sup>2)</sup>。かつてより雑木林は落葉や下草をとる農用林として利用され、農業生産の土づくりの基盤となってきた。そこで、残存している雑木林内の落葉が、近年の都市農業とどのような関わりを持つかを詳細に知るためにアンケート調査を行い、今後の都市近郊林のあり方と都市農業との関連について調べた。

#### 〔方法〕

三鷹市内の同じ雑木林で落葉掻きをしている12戸の農家を対象に、2000年12月14日に7項目(質問 - 1~6、意見など - 1)および2001年12月17日に6項目(質問 - 7~11、意見など - 2)について、アンケート調査を行なった。回答は複数制で行い、雑木林に関する意見などは記述してもらった。

#### 〔結果〕

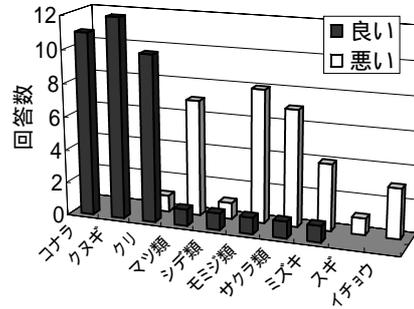
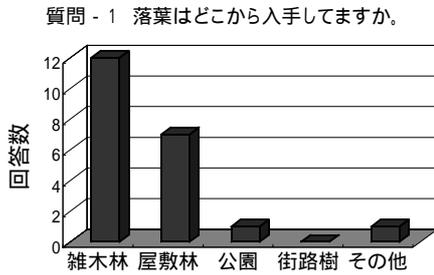
農家に対するアンケート調査の結果は、質問 - 1から質問 - 11の回答を合計して示した。質問 - 1より、落葉の採取先は雑木林と屋敷林が多く、かつての入会林野としての雑木林が中心であることが分かった。質問 - 2より、落葉掻きの年数は50年以上続けている農家が半数以上の7戸であった。農家は林内を下刈りしてから落葉を熊手や機械で集めて、小型トラックに載せて運ぶことより採取する落葉の量は用いたトラック当たりの台数として問い(質問 - 3)たところ、農家により回答は様々であった。1戸当たりの農家の耕地面積は17aから140aまでであった(質問4)。質問 - 5より、農家が採取した落葉は育苗用の苗床に9戸が、また、堆肥用には全農家が利用していた。質問 - 7より、苗床で発酵熱を取るときに適している落葉の樹種はコナラ、クヌギおよびクリであり、マツ類、モミジ類、サクラ類、ミズキおよびイチョウは適さないとの回答であった。発酵熱を取るためには、厚みがあり大きい面積の葉ほど良好な温度と長時間の発酵を生じるようであった。さらに、微生物層等の温床条件を良くするために苗床には落葉以外に、稲わら、米糠などを併用していた(質問 - 8)。質問 - 6より、堆肥には、苗床に使用した堆肥以外に家畜糞などを利用して有機質肥料を中心に使用していた。質問 - 11より、農産物はキュウリ、ナス、トマト、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーおよび大根など多種類の野菜が中心であり、12戸合計の総作付け面積は841a(調査を行った雑木林の落葉だけを利用した作付け面積)であった。農産物の出荷・販売は市場流通と直売の両方であり(質問 - 10)、周辺の市民に直販される野菜は、新鮮さと味の良さから好評とのことであった。意見など - 1の農業と雑木林との関係についての問いに、農家は、落葉は物理的に土壌を改良するために必要であり、雑木林は土づくりの基本として、都市農業にとって近隣の雑木林は大切であるとの回答が寄せられた。意見など - 2の今後、雑木林をどのようにしたらよいかの問いには、いつまでも落葉集めが出来るように林の保存が必要、木が大きくなりすぎて(高齢化)、若がりが必要、雑木林の保全を如何にしていくか、社会全体でのシステム化が必要であると記述された。以上のことから、都市近郊林と都市農業との関係は、物質循環により農業生産の向上を図り、都市近郊林の多様性を持続する上で需要であると評価された。

<sup>1)</sup>中央農業改良普及センター <sup>2)</sup>久野ら 都林試年報(平成12年度) : 31-36, 2001

# 雑木林を農業に利用されている方へのアンケート調査の結果

サンプル12戸  
複数回答

質問 - 7 苗床に使用する時の落葉の種類の良い悪しがありましたら、選んでください。



質問 - 2 いつ頃(何年前)から落葉を利用されていますか。

項目	約15年	25年	30年	40年	50年	60年	70年	80年	先代より
回答数	2	1	1	1	2	0	1	1	3

質問 - 3 使用する落葉の量は年間どのくらいですか(各トラック何台分)。

項目	0.75トシ車			1.5トシ車		2トシ車	
台数	8台	10台	15台	20台	15台	20台	10台
回答数	2	2	3	1	1	2	1

質問 - 4 耕作面積(アール)はどの位ですか。

項目	17a	30a	30a	40a	60a
件数	1	1	1	2	1

項目	70a	80a	110a	120a	140a
件数	3	1	1	1	1

質問 - 5 落葉はどのようなことに使っていますか。

項目	育苗	堆肥
回答数	9	12

質問 - 6 畑地の堆肥として何を使用していますか。

項目	苗床に使用した堆肥	堆きゅう肥	馬糞	稲わら	米糠	モミガラ	油粕	魚粉
回答数	9	6	3	2	2	1	8	2

項目	造園チップ	市販の堆肥
回答数	2	1

質問 - 8 苗床に使用する落葉以外の有機物は何ですか。

項目	稲わら	米糠	鶏糞	油粕	魚粉	馬糞	牛糞	チップ
回答数	9	9	2			3		2

質問 - 9 堆肥以外に肥料を使っていますか。

項目	化成肥料	複合肥料	石灰質肥料	米糠	油粕
回答数	10	8	8	2	1

質問 - 10 農産物の出荷はどのような方法で行っていますか。

項目	市場流通	直売
件数	9	11

質問 - 11 農産物の作付け面積(アール)は年間どの位ですか。

種類	キュウリ	ナス	トマト	キャベツ	ブロッコリー	カリフラワー	ホウレンソウ	葉物
合計面積	56.3	69.5	57.2	131	205	173	43	25

(単位 a)

種類	大根	ニンジン	カブ	ジャガイモ	仔類	エダマメ	モロコシ	キウイフルーツ
合計面積	78.5	12	61	53	18	30	40	45

(合計値 a)

意見など - 1 有機農業と雑木林との関係について、ご意見がありましたら、ご記入ください。

- ・土づくりの基本です。・野菜づくりに雑木林は必要です。・有機農業と雑木林との関係は農業の基本です。
- ・都市農業にとっては近くの雑木林は大切です・今後も今まで通り、続けて行きたい。
- ・有機農業は労力が必要であるが、・長期的(親子代々)農業を続けるためには欠かす事の出来ない作業である。
- ・色々良いと言われる有機等の肥料は畑(土)にもどしてやりたい。

意見など - 2 今後、雑木林をどのようにしたらよいか、お考えがございましたらお書き下さい。

- ・落葉は農業生産にはなくてはならない資材です。いつまでも落葉集めが出来るようにお願いしたい。
- ・今のまま保存してほしい。(税制面を含めて)・現状のままで
- ・木が大きくなりすぎて(老化)、若くえが必要な気がします。
- ・住宅地が進む中、落葉、雑木林はぜったい必要 ぜひ、残してもらいたい。
- ・雑木林の保全いかにして行くか、社会全体でのシステム化が必要